

平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	2-3-2		事業名	さっぽろフィルムコミッション強化事業
担当	経済局産業振興部新産業担当課コンテンツ担当係 瀬藤 211-2379			
全体計画				
事業内容	さっぽろフィルムコミッション(SFC)の機能を強化するため、ロケーション誘致に伴うロケハンや現場立会等の支援業務を外部に委託し、SFC本体の誘致、マーケティング、企画等のプロデュース業務を強化することで、本市へのロケーション誘致をさらに拡大するほか、これまでニーズに対応しきれない部分の解消を図り、事業効果を高めていく。 また、地場の映像事業社に対する人材育成を強化し、大型のロケーション誘致に応えることの出来る体制を確保することで、クリエイターの人材育成機能を担うICC事業、コンテンツの集積とマーケット機能を担う札幌国際短編映画祭とも連携し、本市の映像産業の確立を図る。		<年度別の事業内容>	
			<p>[19年度] 若手クリエイターの実践的な育成プログラムの提供。ロケ誘致に向けたプロモーションツールの作成。</p> <p>[20年度] ロケーションサービス業務の外部委託。映像事業者の人材育成をOJTの手法により進める。当初は在京の映像制作会社等の協力により、実地現場研修の形で進める。</p> <p>[21年度] ロケーションのニーズにあわせて、外部委託業務の強化を検討。市有施設のロケーションに係る一括マネジメント契約の事業化。ロケーション誘致に加え、映像制作事業等の関連企業誘致を実施。</p> <p>[22年度] SFCとロケーションマネジメント会社との連携による、独立組織の立ち上げについて検討する。</p>	
事業内容	平成19年度事業内容(決算)		平成20年度事業内容(決算)	
	<p>デジタルコンテンツ人材育成事業(2,000千円) 若手クリエイター育成を目的に、首都圏の映像制作会社にインターン派遣した。</p> <p>デジタルコンテンツ産業化推進事業(13,000千円) 若手クリエイター育成、シティPRとして札幌をテーマとした短編映画を制作、国内外の映画祭、見本市にてプロモーション活動をした。</p> <p>地域映像産業育成事業(4,200千円) ロケ誘致のためのプロモーションツールとして、ロケ地写真、制作社リストを収録したCD-R付きパンフレットを作成した。</p>		<p>デジタルコンテンツ人材育成事業(1,900千円) 若手クリエイター育成を目的に、首都圏の映像制作会社にインターン派遣した。</p> <p>デジタルコンテンツ産業化推進事業(13,000千円) 若手クリエイター育成、シティPRを目的に、札幌をテーマとした短編映画を制作、国内外の映画祭、見本市にてプロモーション活動をした。</p> <p>フィルムコミッション強化事業(6,000千円) ロケ支援業務を外部の民間業者に委託し体制を強化し、ロケ撮影日数を増加させた。</p>	
事業内容	平成21年度事業内容(予算)		平成22年度事業内容(予算)	
	<p>フィルムコミッション事業・在京派遣研修費(2,000千円) 若手クリエイター育成を目的に、首都圏の映像制作会社にインターン派遣する。</p> <p>フィルムコミッション強化事業(6,000千円) ロケ支援業務を外部の民間業者に委託し体制を強化し、ロケ撮影日数を増加させる。</p>			
規模				
件数等				

平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2)

計画体系コード	2-3-2			事業名	さっぽろフィルムコミッション強化事業		
達成目標の状況							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (予定)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)	
ロケーション(延べ)撮影日数	236日	152日	1,385日	1,500日	1,500日	500日	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>市民との連携、市民参加 エキストラまたは制作者として映像産業界への従事を希望する市民の参加フィールドとして、北海道フィルムサポーター(HFS)を設立している。</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力] (該当なし) [人材協力] 地場の映像関連事業者で構成されるNPO法人北海道映像産業振興連盟(HFA)との協働により、円滑に事業を推進している。 また、首都圏の映像制作会社から、インターン生に対する実践的な制作現場での業務機会の提供を受けている。 [情報協力] (該当なし) [その他の協力] (該当なし)</p> <p>市民・企業等が参加しやすい環境づくり フィルムコミッションの活動を市民に幅広く知ってもらうためのパネル展を開催した(19年12月、20年3月)。</p>							
評価(成果)				課題			
<p>・首都圏の映像制作会社へのインターン派遣により、若手人材に現場での貴重な経験を積ませる共に、フィルムコミッションと受入企業と良好な協力関係を築くことができ、今後の人材育成事業の基盤を作れた。</p> <p>・札幌オリジナルの短編映画制作を通して、地元の若手映像作家に実践的な経験を積む機会を提供すると共に、完成作品を国内外の映画祭、見本市等でプロモーションすることで、札幌の魅力、人材や企業の集積、実力についてアピールすることができた。</p> <p>・ロケ支援業務の専門スタッフを確保したことにより、それまでマンパワー不足で受けきれなかったロケ支援要請に応えることができるようになった。それにより、20年度からロケーション撮影数とそれによる経済効果は、平成19年度までに比べて大幅に増加している。</p>				<p>国内外のさらに大型のロケーション案件を誘致するなどして、地場の映像産業界を拡大していくためには、地場の映像制作企業や人材が主体的にロケーションに関与できるまでの体制を作ることが不可欠であり、今後、更なる人材育成や企業集積の促進が必要である。</p>			
今後の事業の予定・方向							
<p>将来的に、映像産業界を本市の経済活性化の牽引役を担う新産業として確立し、ひいては映像産業界の先進都市としての都市ブランディングの形成を目指すためには、従来の取り組みに加え、地場の映像制作案件の規模拡大に向けた環境整備や、映像産業界に従事するスタッフを育成するための教育・実践の場の創出も含めて、本市の映像関連産業界の体制基盤の強化が必要と考えられる。</p>							

平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

計画体系コード		2-3-2			事業名	さっぽろフィルムコミッション強化事業				
事業費の推移										
項目				19年度	20年度	21年度	22年度	計		
計画	事業費			19,200	34,900	34,900	35,000	124,000		
	財源内訳	国・道	支出金	0	0	0	0	0		
		市	債	0	0	0	0	0		
		その他		0	0	0	0	0		
		一般財源		19,200	34,900	34,900	35,000	124,000		
予算	事業費			19,200	20,900	8,000	-	48,100		
	財源内訳	国・道	支出金	0	0	0		0		
		市	債	0	0	0		0		
		その他		0	0	0		0		
		一般財源		19,200	20,900	8,000		48,100		
実績	事業費			19,200	20,900	-	-	40,100		
	財源内訳	国・道	支出金	0	0			0		
		市	債	0	0			0		
		その他		0	0			0		
		一般財源		19,200	20,900			40,100		
事業費の進捗率				(H19実績事業費 + H20実績事業費 + H21予算事業費) / (計画事業費)						38.8%
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)										
(全体)										
[19年度] 差異なし										
[20年度] ロケーションサービス業務の外部委託は、当初予定よりも経費を縮小して開始している。										
[21年度] デジタルコンテンツ産業化推進事業が20年度で終了したため。										